

2020年6月30日

シリーズ企画「コロナ後のイノベーション動向」

## 【13】物流系、E・マスク氏、宇宙から陸上まで変革 —「トラック版ウーバー」も米中で成長

主任研究員 上原正詩

(要旨)

- ▶ 物流系をリードするのは、ロケット開発を通じ宇宙輸送ビジネスを開拓するスペース X。イーロン・マスク氏が創業した同社は評価額で圧倒的な存在感を示し、コロナ禍中に米国にとってほぼ10年ぶりの有人宇宙飛行を実現した。
- ▶ マスク氏は陸上輸送でも「ハイパーループ構想」を打ち上げ、世界中に影響を与えている。自らもトンネル掘削のスタートアップを立ち上げている。
- ▶ 物流網効率化の面では「トラック版ウーバー」と呼ぶべきスタートアップが中国、米国で生まれ、ユニコーンに育っている。電子商取引市場の拡大とともに宅配・配送ビジネスでも新興企業が成長している。

「物流」関連分野のスタートアップの企業数は53社で、12産業分類中で企業数、評価額合計ではほぼ自動運転系と肩を並べる。自動運転はグーグル系のウェイモが業界をリードしていたが、物流系の主役は米テスラを創業したイーロン・マスク氏だ。同氏が創業した宇宙ロケット開発のスペース X は評価額で圧倒的な存在感を示し、コロナ禍中に米国にとってほぼ10年ぶりの有人宇宙飛行を実現した。マスク氏は陸上輸送でも「ハイパーループ構想」を打ち上げ、世界中の起業家に刺激を与えた。自らはトンネル掘削のスタートアップを立ち上げている。物流網効率化の面では「トラック版ウーバー」と呼ぶべきスタートアップが中国、米国で生まれ、ユニコーンに育っている。電子商取引市場の拡大とともに宅配・配送ビジネスでも新興企業が成長しており、既存の物流業者にも変革を迫りそうだ。

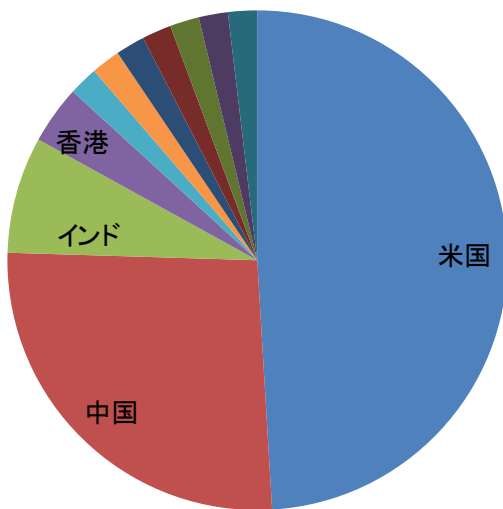
### ■ロサンゼルスにデカコーン、スペース X

物流系<sup>1</sup>は53社で12産業分類中では自動運転と同率で7位(【2】「浮上するヘルス系スタートアップ」図表3参照)。評価額合計は978億ドルで、自動運転に続く9位だった。53社の内訳をより細かく見ると、物流(Logistics)関連が31社、インフラ(Infrastructure)関連が11社、宇宙(Space Technology)関連が11社だった。評価額合計にすると物流が455億ドル、インフラが74億ドル、宇宙が448億ドルと、企業数に比べて宇宙関連が浮上する。デカコーンは1社あり、宇宙関連のスペース X(エックス)だった。ユニコーン以下は評価額が低下するにつれて、比率も減少している(【2】「浮上するヘルス系スタートアップ」図表2参照)。

<sup>1</sup> ピッチブックの産業分類(Verticals)がInfrastructure、Space Technology、全産業分類(All Industries)がLogisticsを物流系と分類した。

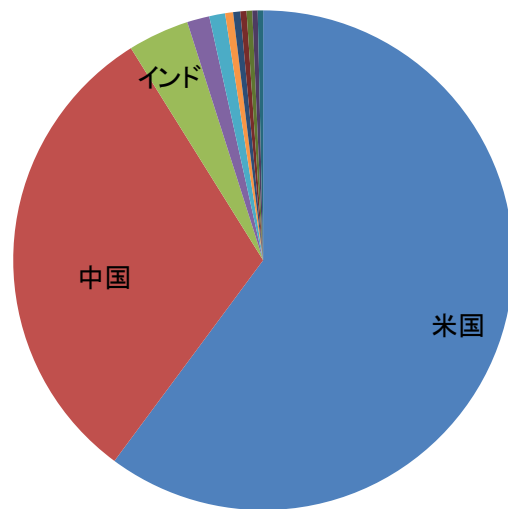
国分布を見ると、企業数では米国がほぼ半数を占め、中国、インドが2位、3位(図表1)。評価額合計では米国が6割に高まり、中国、インドの2位、3位は変わらず。米中で全体の9割を占める。スタートアップ全体と比べると、米国は企業数よりも評価額の比率が高く、評価額の大きなスタートアップが存在することが分かる(図表2)。中国は米国とは逆で、企業数ではスタートアップ全体より比率が高く、評価額ではスタートアップ全体より比率が低い。インドでは物流系は企業数、評価額合計ともスタートアップ全体よりも若干高い結果となった。

図表1 物流系スタートアップの国分布  
(企業数)



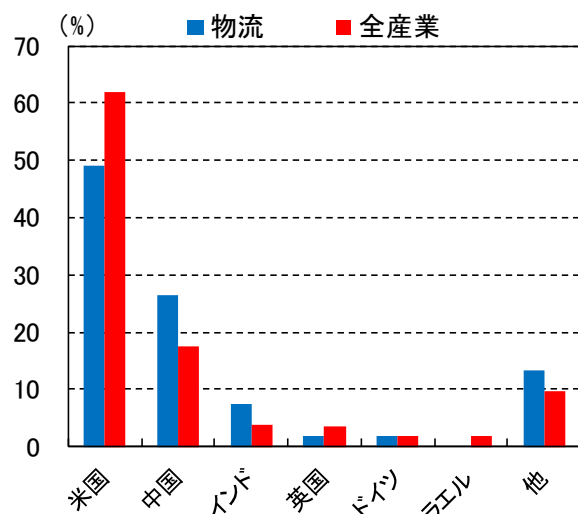
(資料)PitchBook(4月30日時点)

(評価額合計)



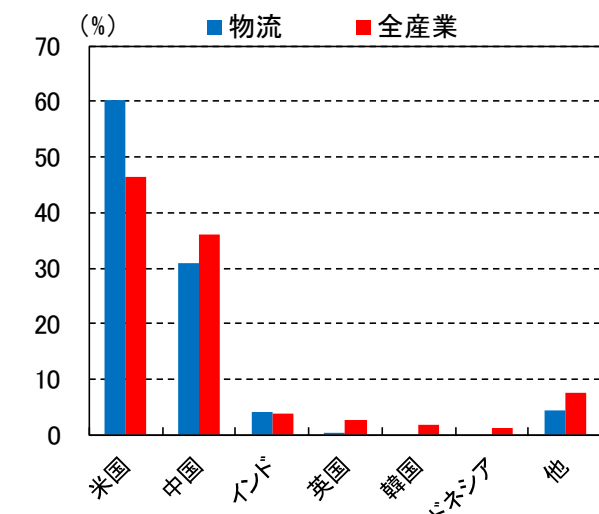
(資料)PitchBook(4月30日時点)

図表2 物流分野と全産業の国分布比較  
(企業数)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

(評価額合計)

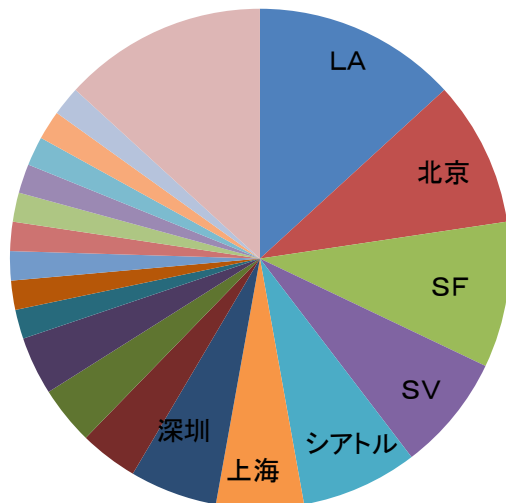


(資料)PitchBook(4月30日時点)

都市分布で見ると企業数はロサンゼルス、北京、サンフランシスコ、シリコンバレー、シアト

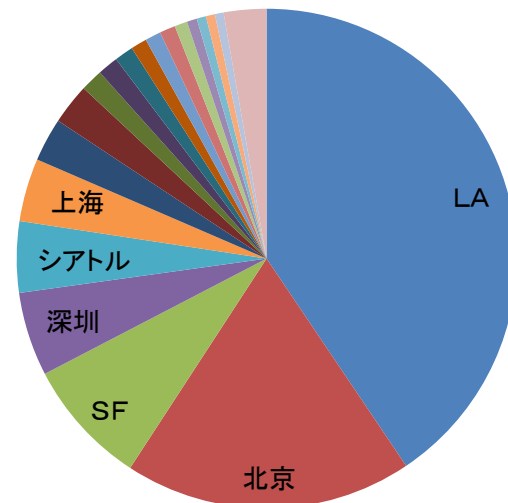
ルの順(図表 3)。評価額合計ではロサンゼルスが 4 割を占めて他を突き放す。やや置いて 2 位の北京も 2 割を占める。以下、サンフランシスコ、深圳、シアトルと続く。ロサンゼルスには物流系唯一のデカコン、スペース X(エックス)が本社を構える。ロサンゼルスの評価額の 9 割、米国の評価額の 6 割、物流系全体の 4 割弱をスペース X が占めている。北京には美菜(メイツァイ)と満幫集団(マンパン・グループ、フル・トラック・アライアンス・グループ)のユニコーン 2 社があり、両社合計で北京の評価額の 75%となっている。

図表 3 物流系スタートアップの都市分布  
(企業数)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

(評価額合計)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

図表 4 は横軸に評価額、縦軸に出資している VC の数(投資 VC 数)をとって物流系 53 社の分布を見た散布図である。図表 4 を参考にしながら、注目の物流系スタートアップをピックアップし、同分野のトレンドを占う。

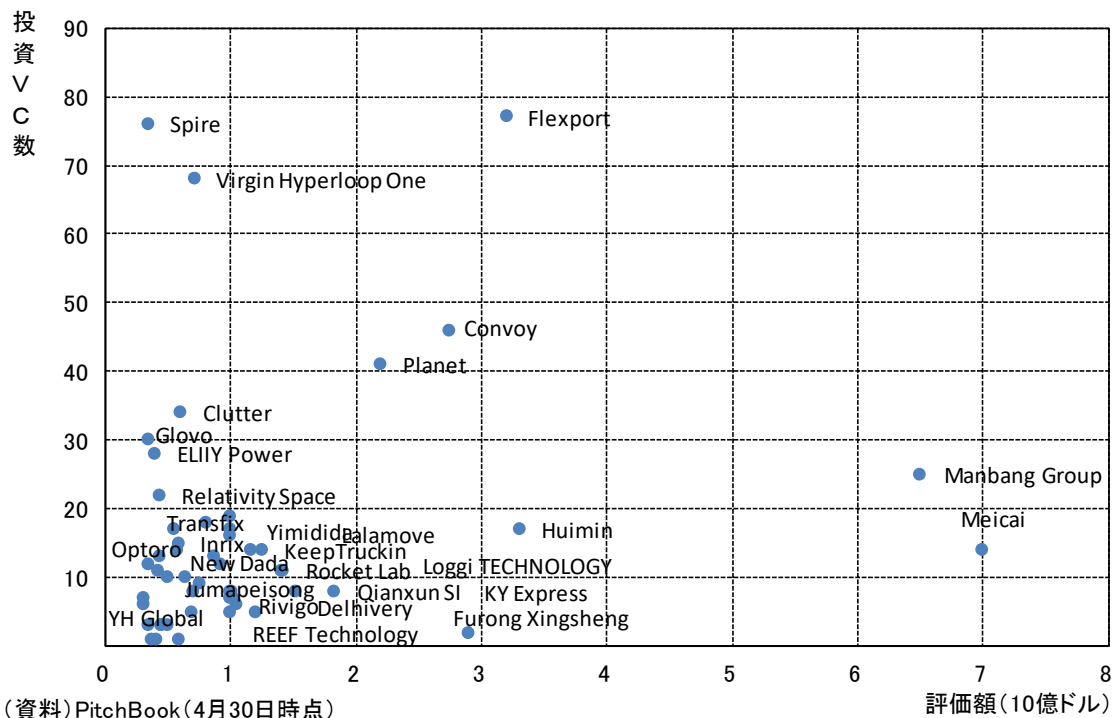
### ① 宇宙関連

分析に当たり、宇宙関連企業を物流系に含めた。評価額トップは他社を大きく引き離し、米スペース X(エックス)(スペース・エクスプロレーション・テクノロジーズ)(ロサンゼルス)となった。同社はロケット開発スタートアップで、米ペイパルの創業者の一人、イーロン・マスク氏が 2002 年に創業した。マスク氏は電気自動車メーカーの米テスラのトップとスペース X のトップを掛け持ちしている。スペース X には米航空宇宙局(NASA)、ファウンダーズ・ファンド、シェアーズポスト、ティー・ロー・プライスなど 70 社が投資している。

スペース X の目的は宇宙旅行のような娯楽ではない。人類の「火星移住」だ。火星に自立都市を建設し、そこをベースに人類が宇宙で活躍できるようにする。人類を「複数の惑星に生きる種族にする(Making Humanity Multiplanetary)」とうたう。そのための手段としてブースター(推進装置)を何度も再利用できる、低コストのロケット「ファルコン 9」を開発している。「ファルコン 9」は 2010 年 6 月に初めて打ち上げに成功している。「ファルコン 9」を 3 つ束ねて、より重い衛星を宇宙に運ぶことができる「ファルコン・ヘビー」も 2018 年 2 月に打ち上げた。最大 7 人を載せることができる宇宙船「ドラゴン」も開発し、19 年 3 月に国際宇宙ス

ーション (ISS) との無人のドッキングに成功。さらには 20 年 5 月 30 日に宇宙飛行士を乗せた「ドラゴン」を打ち上げ、31 日に ISS にドッキングさせている。2011 年に米航空宇宙局 (NASA) の「スペースシャトル計画」が終了して以来、ほぼ 10 年ぶりの米国による有人宇宙飛行となった。

図表 4 物流系スタートアップの評価額と投資 VC 数の散布図



(注) スペース X (評価額 357 億ドル、投資 VC 数 70) は枠外。

ファルコン 9、ヘビー、ドラゴンをすべて統合して惑星間の輸送システムにする構想が「スターシップ」だ。直径 9 メートル、長さ 50 メートルのスターシップを「ヘビー」で宇宙に打ち上げ、そこから月や火星に飛ぶ。ヘビーは再び地球に戻り、再度、打ち上げに使われる。スターシップは地球の都市間を結ぶ輸送手段としても使われ、飛行機で 5 時間 25 分かかるロサンゼルスーロンドンの移動も 25 分に短縮できるとしている。ファッションのネット通販「ZOZOTOWN」を立ち上げた前澤友作氏らが月の周回軌道に載って地球に帰ってくるプロジェクト (2023 年予定) も、「スターシップ」を利用する予定だ。

評価額 11 位の米ロケットラボ (ロサンゼルス) は小型衛星を打ち上げるためのロケットを開発するスタートアップ。ニュージーランド出身のピーター・ベック氏が 2006 年に設立した。同社は 2018 年 11 月に初の商用ロケットの打ち上げに成功し、すでに 10 回以上の打ち上げ実績がある。2020 年 4 月にはカナダのシンクレア・インタープラネタリー (トロント) を買収し、通信衛星の開発にも乗り出している。同社にはオーストラリアの政府系投資基金のフューチャー・ファンド、米ロッキード・マーチンなど 11 社が支援している。

宇宙飛行についてはアマゾン創業者のベゾス氏も 2000 年に米ブルーオリジン<sup>2</sup> (シアトル

<sup>2</sup> ブルーオリジンの評価額は不明のため、VC 支援企業約 1200 社には含まれていない。これまでの資金

近郊のケント)を設立し、個人資産を毎年10億ドル投じて、再利用可能なロケットなどの開発を進めている。ブルーオリジンはスペースXよりも前に始まったが、スペースXの影に隠れて目立たない存在だった。しかしNASAは20年5月、2024年に予定している有人月飛行計画「アルテミス」の月面着陸船(HLS)の開発企業として、米防衛関連企業レイドス・ホールディングスの子会社ダイネティクス、スペースX、そしてブルーオリジンの3社を選定した。ブルーオリジンは垂直離着陸機「ブルームーン」を開発中で、HLSの実現に当たりロッキード・マーチン、ノースロップ・グラマン、ドレイパーの3社と協力するという。

リチャード・ブランソン氏率いる英ヴァージン・グループも、2004年に米ヴァージン・ギャラクティック<sup>3</sup>(ロサンゼルス近郊のモハーベ)を設立し、宇宙旅行をビジネスとして展開しようとしている。20年4月末時点で44カ国から400人以上の個人から予約が入っており、将来、1億ドル以上の収入が見込まれているという。同社は2017年にロケット開発をする米ヴァージン・オービット(ロサンゼルス)を分離・独立させている。

宇宙関連ではほかに衛星を使った情報提供サービスが注目される。評価額8位の米**プラネット・ラボズ**(サンフランシスコ)がある。2010年設立で、衛星による地球の画像データを提供する。2017年にはGoogleから高解像度衛星画像サービスのテラベラを買収し、代わりにGoogleがプラネットに出資した。ほかにヤフー創業者ジェフリー・ヤンのアメ・クラウド・ベンチャーズやシェアーズポストなど41社が出資している。米**スパイア・グローバル**(サンフランシスコ)も衛星を使って天候、船舶や航空機の位置情報などを収集し、企業向けに提供している。2012年創業のミニコンだが、クアルコム、伊藤忠商事、三井物産など、スペースXよりも多い76の投資家が出資している。

評価額9位の中国・**千尋位置(チンシン・スペイシャル・インテリジェンス)**(上海)も衛星を使った高精度位置サービスを提供している。中国版のGPS(全地球測位システム)「北斗」のデータを使って、センチメートル単位の正確な位置情報を提供する。自動運転のナビゲートなどに活用される。2015年設立で、阿里巴巴集団(アリババ集団)、中国兵器集団(チャイナ・ノース・インダストリーズ)など8社が出資する。

## ② ハイパーループ

ハイパーループは真空状態にしたチューブ(トンネル)の中を電動の車両が高速で移動する交通システム。Tesla、スペースXを率いるイーロン・マスク氏が2013年8月に公表したアイデアで、サンフランシスコとロサンゼルスの間(約560キロメートル)を最大時速1220キロメートルで走行し、35分で結ぶという。両都市の空港間は飛行機でも1時間半はかかる。高速バスなら9時間、自家用車なら6時間かかる。ちなみにJR東海が「リニア中央新幹線」として2027年に品川一名古屋間の開設を目指しているリニアモーターカーは時速500キロメートル。ハイパーループは空気抵抗がない分、その倍以上の速度が出る計算だ。初期の構想「ハイパーループ・アルファ計画」の作成にはTeslaとスペースXの技術者が関わった。カリフォルニア州はサンフランシスコとロサンゼルス間に高速鉄道を建設する計画だが、所要時間は2時間半で建設費は約700億ドル。マスク氏の構想の推計コストは70億ドル前後でその10分の1という。

ハイパーループの開発で先頭を走るのが米**ヴァージン・ハイパーループ・ワン(VHO)**(ロ

調達額は5億ドルに達している。

<sup>3</sup> ニューヨーク証券取引所上場、6月下旬の時価総額は36億ドル。

サンゼルス)。評価額 7 億ドルのデミコーンだが、英ヴァージン・グループのほかドバイの港湾管理会社 DPワールド、米ゼネラル・エレクトリック、シェアーズポスト、真格基金（チェンファン）など 68 の投資家から支援を受けている。68 社という投資 VC 数は物流系スタートアップの中では、フレックスポート、スパイア、スペース X に次いで 4 番目に多い。

VHO はベンチャーキャピタリストのシャービン・ピシューバー氏、スペース X の技術者のブローガン・バムブローガン氏、スペース X とヴァージン・ギャラクティックで技術者として働いた経験を持つジョシュ・ギーグル（現 CTO）の 3 人が 2014 年にハイパーループ・テクノロジーズ（後にハイパーループ・ワンに改名）として設立した。2017 年 10 月に英ヴァージン・グループ及び創業者のチャード・ブランソン氏から出資を受けて、ブランソン氏を取締役として迎えるとともに、社名にヴァージンのブランドを冠することになった。同社はサイトの FAQ（Frequently Asked Questions）で「（当社と）イーロン・マスク氏とは一切関係がない」としているが、ピシューバー氏とマスク氏が航空機の中で交わした会話からハイパーループの着想が始まったとされる。

VHO はネバダ州の砂漠に 500 メートルの実物大の屋外走行実験サイトを設け、実験機で 2017 年 7 月に時速 310 キロメートルを達成した。その実績を元に世界各地で実現可能性の調査に乗り出している。インドではマハラシュトラ州がムンバイーブネの間にハイパーループを建設する意向を表明しているほか、ドバイでは港湾と内陸を結ぶ貨物輸送システムとしてハイパーループを導入する方針を打ち出している。スペイン、サウジアラビアなどでも導入の検討が進む。米国国内でもネバダ、テキサス、ミズーリ、コロラドなど 9 つの州が可能性調査をしている。

米ハイパーループ・トランスポーターション・テクノロジーズ（HTT）（ロサンゼルス）はダーク・アールボーン氏らが 2013 年に創業した、評価額 3 億ドルのミニコーンだ。アールボーン氏はクラウドファンディングの米ジャンプスターターを 2013 年に創業。マスク氏のハイパーループ構想を見て、ジャンプスターターのプラットフォームを通じてアイデアに共感した技術者や投資家を集めて HTT を設立した。スペインのブラック・トロ・キャピタルやイタリアのインキュベーターのデジタル・マジックスなど 6 社が支援する。HTT は 2019 年にフランス南部トールーズに走行試験サイトを建設した。アブダビの不動産会社とはアブダビとドバイの間にある地点で旅客用ハイパーループを建設することで 2018 年 4 月に合意している。2018 年 6 月にはウクライナと、さらに 2018 年 7 月には中国の貴州省銅仁市政府と 10 キロメートル未満の試験路線を建設することでも合意している。また米国の五大湖の主要都市を結ぶハイパーループについても実現可能性を調査中だ。

構想を発表したマスク氏自身はハイパーループを通す地下トンネルの建設を手掛ける米ボーリングカンパニー（TBC）（シリコンバレー）を 2016 年に設立した。TBC はユニコーン一歩手前のデミコーンで、マスク氏のほかサッカー選手の本田圭佑氏と米俳優ウィル・スミス氏が出資するドリーマーズ VC、DFJ（ドレイパー・フィッシャー・ジャーベットソン）グロース、タオ・キャピタル・パートナーズなど 12 の投資家を抱える。ロサンゼルス交通渋滞に腹を立てたマスク氏がトンネルを掘ってそこに車を走らすことを考えたことから、会社設立に至った。

TBC が掘るのは直径 4 メートルほどのトンネルで、通常の掘削装置で掘るトンネルの半分ほど。掘る穴を小さくすることで掘削コストを 3～4 分の 1 にできるという。さらに掘削スピードを高め、掘削すると同時にトンネル崩落を防ぐ壁を作っていくことで効率向上を実現した。TBC はメリーランド州ボルチモアとワシントン DC の約 56 キロメートルを結ぶ地下交通プロジ

エクトを提案している。ハイパーloopではなく、一回り小粒の「loop」と呼ぶシステムで、トンネルの中を「ポッド」と呼ばれる自動走行の電気自動車が最高時速 240 キロメートルで走る。1 時間かかる距離を 15 分ほどに短縮できる。往路と復路の 2 本のトンネルを 2 年かけて掘削するという。「ポッド」はテスラの「モデル X」をベースに開発され、16 人乗りが可能という。

### ③トラック配車サービス

評価額 3 位の中国・満幫集団（マンパン・グループ、フル・トラック・アライアンス・グループ）（北京）は「トラック版のウーバー」とも呼ばれ、荷物を運んでもらいたい人と荷台が空いているトラックをマッチングさせるサービスを提供する。江蘇満運軟件科技（運満満）と貴陽貨車幫科技（貨車幫）が 2017 年に合併して誕生した。両社の創業者はともにアリババの出身。中国 339 都市で、700 万人のドライバーと 225 万人の利用者を結び付けている。百度（バイドゥ）、騰訊控股（テンセント）、GGV、セコイア・キャピタル・チャイナ、ソフトバンクグループ、タイガー・グローバル・マネジメントなど 25 社が出資する。19 年 11 月にはブラジルの輸送会社トラックパッドに出資し、国際展開にも乗り出している。

「トラック版のウーバー」は米国にもある。評価額 7 位の米コンボイ（シアトル）だ。元アマゾン社員であるダン・ルイス氏とグラント・グッデール氏が 2015 年に創業した。ジェフ・ベゾス氏とビル・ゲイツ氏というシアトルに本拠地を置くビッグテックの創業者たちも出資している。ほかに Y コンビネーター、ティー・ロー・プライスなど 46 の投資家が出資する。評価額 8 億ドルのデミコーン、米トランスフィックス（ニューヨーク）も荷主と輸送業者のマッチングサービスを提供する。2013 年創業で、住友商事など 18 社が出資する。

評価額 19 位の香港・ララムーブ（香港）は香港や東南アジアを中心に、荷主と輸送業者を仲介する。2013 年にイージーバンの名称でサービスを開始した。小口配送に適したミニバンを利用者に紹介している。電子商取引の普及で小口の配送サービスが伸びており、同社はインドやブラジルでもサービスを提供している。セコイア・キャピタル・チャイナ、高瓴資本（ヒルハウス・キャピタル・グループ）、順為資本など 17 社が出資している。香港には 2013 年創業のゴーゴーパーン（香港）というライバル企業があるが、同社は 2017 年に中国・快狗打車（クアイコウダーチュー）<sup>4</sup>（天津）に買収された。

### ④宅配・配送サービス

トラック配車サービスは自ら車両と運転手を抱えないが、宅配サービスは自ら物流網を構築する旧来型の物流会社だ。評価額 6 位の中国・跨越速運（クアユエソーイン、KY エクスプレス）（深圳）は中国全土に宅配便サービスを展開する。もともと航空便による即日配達サービスだったが、トラックによる配送なども手掛けるようになった。2007 年創業で、セコイア・キャピタル・チャイナが投資している。

評価額 11 位の中国・豊巢科技（ハイブ・ボックス・テクノロジー）（深圳）は荷物を宅配ボックスに預けることで、荷物の受け渡しを無人化した。2015 年設立で、シンガポールの物流施設会社グローバル・ロジスティック・プロパティーズ（GLP）や HSBC など 11 社が投資する。

<sup>4</sup> ニューヨーク証券取引所に上場する 58 同城（58.com）の宅配便会社として 2014 年に設立された。ほかの VC の資本も受け入れ、現在は VC 支援企業だが、評価額未定。これまで 2.5 億ドルを調達している。

2013 年創業の中国・菜鳥ネットワーク(ツァイニャオ・ネットワーク・テクノロジー)(杭州)がライバルで、同社はアリババに 2017 年に買収された。

インド全土で宅配サービスを展開するのは評価額 10 位の印 **デリバリー**(ニューデリー)。小口配送が得意で、印フリップカートなどインドの電子商取引サービスとともに事業を拡大してきた。2011 年創業で、ソフトバンクグループ、タイガー、インドのタイムズ・インターネットなど 8 社が投資する。

評価額 16 位の印 **リビゴ**(ニューデリー)は企業向けにトラックによる配送サービスを提供する。ドライバーが数百キロメートル走行するごとに、別のドライバーと交代し、リレー方式で長距離輸送に対応する。一人のドライバーが長時間、家庭を離れなくても仕事ができる環境を提供する。2014 年創業で、シンガポール・ポスト、韓国の KB インベストメント、香港の SAIF パートナーズなど 6 社が投資する。

ブラジルのユニコーン、**ロジ・テクノロジー**(サンパウロ)はブラジル全土を航空便とトラック配送で結び、ラストワンマイルはバイクなども活用する宅配サービス会社。2013 年にバイク便会社として設立され、配送地域を拡大してきた。現在、ソフトバンクグループ、GGV、グループ、マイクロソフト、クアルコムなど 16 社が投資する。

また、評価額 2 位の中国・**美菜(メイツァイ)**(北京)と評価額 4 位の中国・**中商惠民(フイミン)**(北京)は B2B(企業向け)の電子商取引サイトであるが、自ら物流倉庫や配送網を持つということで物流系に分類された。美菜は 2014 年創業で、レストランと農家をつないで食材を届けるサービスを展開する。GGV、ヒルハウス、美团点评、小米科技、マイクロソフト、タイガー・グローバル・マネジメントなど 14 社が出資している。中商惠民はコンビニエンスストアなど中小小売店向けに B2B の電子商取引プラットフォーム及び物流配送網を提供する。中国 23 都市の約 60 万の小売店に約 30 の物流センターから 1000 台規模の車両で食品などを届けている。晨興資本(モーニングサイド・ベンチャー・キャピタル)など中国系 VC を中心に 17 社・人が出資する。

## ⑤ 国際物流サービス

評価額 6 位の米 **フレックスポート**(サンフランシスコ)は輸出入など国際物流のスタートアップ。フレイトフォワード(貨物利用運送事業者)と呼ばれ、荷主から貨物を預かり、航空、船舶などの輸送業者を活用して輸出入業務をする。税関に提出する膨大な書類の処理などをデジタル化し、ネットから荷物の場所を荷主が随時確認できるようにした。米フェデックスや米 UPS など小口の国際物流業者はすでにデジタル化しているが、大口輸送のフォワードは取り組みが遅れていた。荷主に対して保険やつなぎ融資などの金融サービスも提供している。

同社は貿易データ分析ツールのインポートジェニアスを創業したライアン・ピーターソン氏が 2013 年に創業した。ソフトバンクのほかファウンダーズ・ファンド、DST グローバル、グループ、SV エンジェル、Y コンビネーターなど、物流系では最多の 77 社が出資する。

中国でフレックスポートに相当するサービスを手掛けるのは、評価額 10 億ドルのユニコーン、中国・**越海全球物流(ユエハイ・グローバル、YH グローバル)**(深圳)。世界各国に 80 以上の倉庫を持ち、中国企業のグローバル・サプライ・チェーンを支えている。建設会社の深圳広田集団(グランドランド・グループ)、盤石資本(ストーン・グループ)など 5 社が投資する。



## ■交通情報提供のインフラ系スタートアップも

図表 5 に物流系を支援する VC 上位 11 社 (4 社以上に出資) のリストを示した。ソフトバンクの「ビジョンファンド」を運営するソフトバンク・インベストメント・アドバイザーズがトップになっている。5 位の DJF グロースとドレイパー・フィッシャー・ジャーベットソン・マネジメントは同系列の投資会社である。著名ベンチャーキャピタリストのティモシー・ドレイパー氏を中心に運営されているファンドで、ドレイパー氏はスカイプやテスラ、最近ではビットコインへの投資で知られる。

図表 6 はこのトップ 11VC と、出資するスタートアップの出資関係を描いたグラフである。ソフトバンクを中心に米国系企業と中国・アジア系企業の生態系に分かれている。米国系はスペース X、プラネット、TBC などが近くに寄っており、こうした企業に共通して投資する VC が多いことが分かる。

シェアーズポスト、マイクロベンチャーズが出資する米 **インリックス** (シアトル) はモバイル端末や走行している自動車からの情報を収集して、渋滞状況を監視し交通管理のための情報を提供する。物流系の中でもインフラ系として分類されたスタートアップで、2005 年設立の評価額 5.8 億ドルのデミコーンだ。米インテル、独ポルシェ、日本のオリックス、クライナー・パーキンス (KPCB)、米ベインキャピタルなど 15 社が出資する。

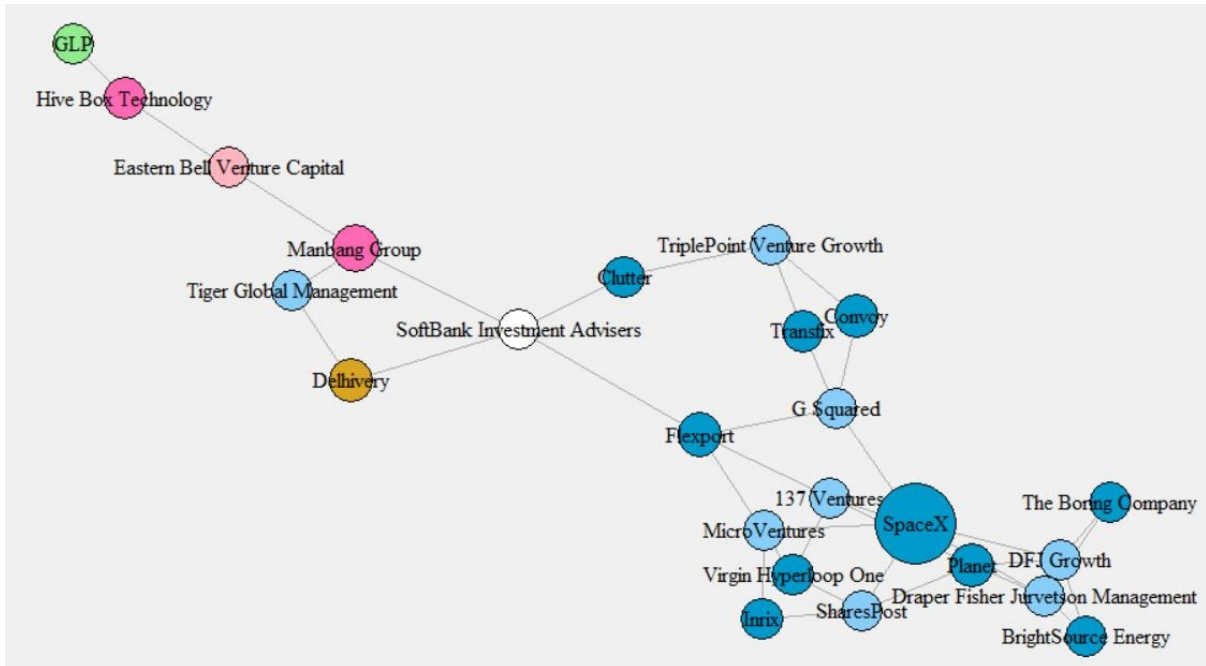
同社は物流の情報インフラとなっており、グーグルマップにも渋滞情報を提供している。独 BMW のコネクテッドカーにもデータを提供し、路上駐車空きスペースを地図上に表示させるといったサービスを可能にしている。コロナ禍中の都市封鎖で、米加英仏独伊スペイン、ベルギー 8 カ国の交通量がどのように変化してきたかといった分析データの提供も始めている。

ソフトバンクとトリプルポイントが出資する米 **クラッター** (ロサンゼルス) は頻繁に使わないものを預かるストレージサービスを提供する。スマホの操作で簡単にストレージからものを出すことができ、その配送業務も請け負っている。評価額 6 億ドルのデミコーンで、ロサンゼルスのアクセラレーターであるアンプリファイ LA、グーグル、セコイア・キャピタルなど 34 の投資家を抱える。

図表 5 物流系を支援する VC 上位 11 社 (カッコ内は出資スタートアップ数)

- 1 英ソフトバンク・インベストメント・アドバイザーズ (6)
- 2 米マイクロベンチャーズ (5)
- 3 米シェアーズポスト (5)
- 4 米 137 ベンチャーズ (4)
- 5 米 DFJ グロース (4)
- 6 米ドレイパー・フィッシャー・ジャーベットソン・マネジメント (4)
- 7 米イースタン・ベル・ベンチャー・キャピタル (4)
- 8 米 G スクエアード (4)
- 9 シンガポール・GLP (4)
- 10 米タイガー・グローバル・マネジメント (4)
- 11 米トリプルポイント・ベンチャー・グロース (4)

図表 6 物流系の有力 VC とスタートアップの出資関係



(資料) Pitchbook(4月30日時点)、JCER

(注) 青い丸が米国系、赤い丸が中国系、黄色い丸がインド系、緑の丸がアジア系で、それぞれ濃い色がスタートアップ、薄い色が VC。白い丸はそのほかの国のスタートアップ及び VC。スタートアップの丸の大きさは評価額を表す。物流系スタートアップ 53 社に出資する VC は 750 弱。そのうち 4 社以上のスタートアップに出資する VC 11 社と、その 11 社のうち 2 社以上出資するスタートアップ 13 社の出資関係をネットワーク・グラフで表現した。

本稿の無断転載を禁じます。

詳細は総務本部までご照会ください。

公益社団法人 日本経済研究センター  
 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル11F  
 TEL:03-6256-7710 / FAX:03-6256-7924